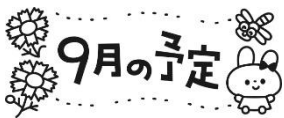


R4年 9月

市野谷つばさ保育園

水遊びやお祭りなどさまざまな体験を楽しんだ夏が終わり、だんだんと秋の気配が近づいてきました。遊びだけでなく、小さな命ともたくさん触れ合えた夏。一匹しかいなかったカブトムシのケースには仲間が増え、毎日子どもたちはケースの中を覗き込んでいます。ゼリーがなくなると「ゼリー下さい！」と事務所に取りに来て、お兄さんが「1つだけ取るんだよ！」などと下の子たちに優しく教えてあげる姿に、成長を感じます。幼児組にいるメダカたちもお腹に卵をつけ、その卵が孵化し赤ちゃんメダカが泳いでいる姿を虫眼鏡でじっと観察したり、餌を一生懸命あげてくれるお友だちもいます。限りある命、悲しくも尽きてしまったときは保育者と一緒にお墓を作ってくれる優しいお友だちも。どんなに小さくても一つだけの命。さまざまなことを一人ひとりの心に刻んでくれていることなのでしょう。



1日(木) 乳児身体測定

6日(火) 幼児身体測定

7日(水) お誕生会

★各クラスにて行います

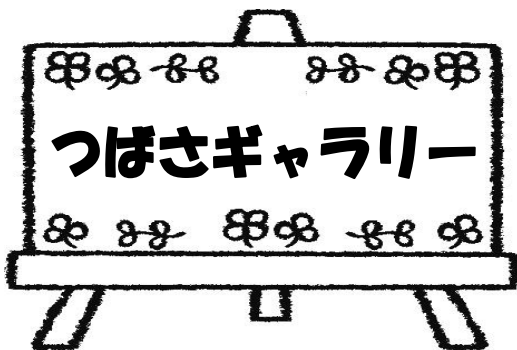
29日(木) 幼児組運動会予行練習

※避難・消火訓練は日にちを決めずに行います。

※幼児組徒歩遠足は残暑などのことも考慮し、運動会後に延期予定です。詳細は後日お知らせします。

降園について

登降園の際、玄関に置いてあるタブレットで時間の確認をさせていただいていますが、夕方タブレットの充電が切れてしまうことに気付かずご迷惑をおかけすることが度々あることや人数把握の点から、9月5日(月)より **17:30以降すみれ・つくし組保育室前**に置かせていただきますのでそちらでタッチしていただきますようよろしくお願い致します。またタッチした時間が19時を過ぎますと超過料金が発生しますので、ご注意ください。



この度事務所前の壁を、子どもたちの描いた絵を飾る『つばさギャラリー』のスペースとして活用したいと思います。

子どものお絵かきにも発達段階があり、大人の関わり方によってさらに大きくその力を伸ばしていけることなのでしょう。

お絵かきには、創造性が育つ、字に興味を持つきっかけになる、指先が上手に動かせるようになる、空間や図形の理解に繋がる、心の安定に繋がるなどのメリットがたくさんあります。

園では2月に成長展として、子どもたちの1年の成長を見ていただく機会を設けていますが、その途中経過もこのギャラリーを通して感じていただけるのではないのでしょうか。

描いた絵を否定したり、誰かと比較して優劣をつけて競わせるのではなく、表現する過程を子ども自身が面白い、もっとやってみたいと思ってくれるといいと思います。子どもたちの表現に正解・不正解はありません。上手下手で判断するのではなく、個々の感性でその時に感じたものを自由に表現できることを保護者の皆様にも子どもたちと一緒に喜んでいただけたらと思います。

不定期でテーマを決めてお家で描いてきた絵を掲示する企画なども検討中です。その時は是非お子さんと一緒にお絵かきを楽しむ時間を作っていただけたらと思います。

お楽しみに♪

参考：インターネット CONOBAS

「こどもかいぎって？」

子どもたちが輪になって自由に話し合うことを『こどもかい

ぎ』と言います。ルールは、①5~6人の子どもたちで行う ②さまざまなテーマについて話し合う

③自由になんでも発言してよい ④お友だちの話していることを聞く ⑤先生は進行役としてサポート

⑥答えはなくていい です。これを行うことで伸びる力は、

- ・他の人の話をしっかり聞こうとする力
- ・話の内容を理解したり自分と違う意見への寛容さや共感力
- ・自分で考える力や習慣が身に付き、新たな発想や好奇心が生まれる
- ・自分の意見を表現する力
- ・みんなで考えるとより良い解決方法が見つかることに気づき、語り合うことで信頼関係が強まる
- ・かいぎの空間が「居場所」となることで聞いてもらえる安心感や自己肯定感、自尊心が育まれたり、自分の発言を受け入れてもらえる「精神的スキンシップ」の積み重ねで自己受容と自己理解が深まる
- ・人の話を聞くことで、自分と同じ考えや自分と違う意見があることを知り、共感する力
- ・対話によって意見をすり合わせ妥協点を見つけるなど現状を改善しようとする力
- ・お互いのアイデアをぶつけ合うことで新しい価値や仕組みを想像する力に繋がる
- ・周りとの対話によって、情報とアイデアを交換し、「最善の策」を導く正解のない社会を生き抜く力とされています。

早速園でも年長の学習の時間に取り組み始めました。最初のテーマは好きな食べ物や好きなテレビなど話しやすいものをテーマとして、「チクチク言葉(相手が嫌だなと思う言葉)は使わない」「お友だちの話は最後まで聞く」「意見があれば手を挙げる」という約束をしてからスタート。さまざまな意見が聞かれ、話が発展していくと天気の話になり、「雨は何で降るのかな？」の質問に「神様が怒ってるんだよ」「雷は神様がめちゃめちゃ怒ってるんじゃない？」「え？何で？神様は光だよ」などと子どもたちの会話が広がる場面も見られました。

たくさん発言する子、ただじっとみんなの話の話を聞いている子、会議に参加できないけど気になっている子…子どもたちの様子はさまざまでしたが、相手の話を最後まで聞くというのはこれから頑張っていかなければならないのかな、という印象です。それでも回を重ねていくうちに「聞いて！」と誰かが教えてくれると「あっそうだった！」と気付く姿も。自分の気持ちを言葉にして伝えること、そして他者も受け入れること、難しいことではありますが、小さい頃からの積み重ねがとても大切だと思います。是非お家でもお子さんと対話してみませんか？映画にもなっている『こどもかいぎ』、サイトもあるので興味を持った方は覗いてみてくださいね。

保育目標

- すみれ組・戸外遊びや散歩を通して、感触や視覚からの刺激を受けながら、触ったり見たりすることを楽しむ。
 - ・遊びや生活の中で、友だちや保育者と一緒に触れ合うことを楽しむ。
- つくし組・戸外遊びを通じて身近な秋の自然に触れる。
 - ・友だちとの関わりが増え、自分の思いを言葉や動作で伝える。
- たんぽぽ組・友だちと一緒に遊ぶ中で、思い通りにいかないこともあることを知る。
 - ・スプーンやフォークを使って、徐々に鉛筆持ちができるようにする。
- ゆり組・集団のきまりを守ろうとする。
 - ・保育者や友だちと一緒に全身を使って遊ぶことを楽しむ。
- ばら組・自分の思いを伝えたり相手の気持ちを考えながら友だちとのつながりを感じる。
 - ・身近な草花や虫などに触れて遊び、秋の自然に興味や関心を持つ。
- ひまわり組・意見を主張したり、受け入れたりしながら、友だちと遊びを楽しむ。
 - ・友だちと共通の目的を持ち、協力して活動に取り組み、達成感を味わう。

